

# 編集室

\* Watering Holeという言葉があります。サバンナのオアシスをイメージして下さい。この水飲み場には、水を求めて動物たちが集まり、水を奪い合ったり、食べ合ったりするのですが、生物学的にはDNAを交換して進化するという重要な意味があります。

\* 融合とか連携とか共生とかが大切なキーワードです。文理融合、産学連携、医工連携です。閉塞化が進む日本にとって特効薬はないでしょうから、多様な考えを許容しつつ連携を進めることとなります。

\* 小生の所属する大学では2012年の4月から、リーディング大学院プログラム「超成熟社会発展のサイエンス」をスタートさせ、その推進担当をやっています。M/M/Dで修士を二つと博士号を、全部で5年間で取得する教育拠点プログラムで将来の日本のリーダーを目指す学生が集っています。ここでも異分野の人と議論するWatering Holeを積極的に進めています。その中で、医学部の先生とお話する機会がありました。私は、高齢者医療といえば、がんの克服は人類にとってとても重要な問題だと思い込んでいました。高齢化時代という言葉には、暗くつらいイメージがありますが、高齢者医療がその大きな問題かと思えます。でも、その医学部の先生にとって、がんの克服はもちろん重要なのですが、所詮2、3年の平均寿命の延長程度の意味しかなく、別な死因が出るだけと考えています。高齢化時代の政策は、1日でも寝込んで入院させないように、生きがいと健康を推進することだそうです。先生は、「スポーツジムの70歳以上無料化の方が、がん克服のために巨額を使うよりも効率のいい高齢者医療費政策ですよ。」と笑って言っていました。つまり1日の入院費用を1万円とすれば、その分でおじいちゃんおばあちゃんがスポーツジムで遊んで、温泉に入ってみんなでおしゃべりをする1か月分の会費が払えるという意味です。無限に生きることができない限り、医療の研究にはゴールがないことへの皮肉なのですね。もちろん医学の発展を否定するものではなく、異業種の考えを総合して政策を考える必要があると思いました。

\* 同様の議論の中で、理工系の考えに基づき、製品の性能とコストの重要性を信じて開発してきた日本の製品が売れなくなっていくのは、成熟化して大量生産でコストダウンという考えにとらわれているからだという意見がありました。ロングテールのニーズやユーズごとにカスタマイズさせ、女子高生や高齢者のニーズを真剣に探ることも必要かと思えます。一種のブームを作るのにたけているAppleは、新しい技術にセンセーショナルなマーケティングを組み合わせたキャンペーンを行い、世界一斉発売をしていることは有名です。必要性や性能ではなく、何となく「これを持っていないと古い、かっこ悪い」と感じて、多くの人が発売日に並んでいます。ここでも、デザイン、マーケティングを組み合わせた異業種の連携がいかに重要かというのが分かるかと思えます。

\* ビッグデータ時代の情報の世界では、情報の量ではなくてリンクされたデータの方が重要視されてきました。電子情報通信学会もこのWatering Holeです。研究会に集まって、夜まで温泉で泊まり込み、企業の研究所の最新の成果を聞き、学生は修士論文の結果を発表して、デバイスに詳しい方からアドバイスをもらう。つまり古典的ですが、コミュニティや人脈を、しっかり学会を利用して作ることが有効です。DNAを交換するためには、自らのDNAも提供して、お互いに助け合って学ぶことが重要です。電子情報通信学会には年齢（満70歳以上）+会員期間が100年を超えた場合に適用となる終身会員制度があり、何と、もうすぐ対象者が2千名を超えるそうです。素晴らしいと思いました。私は、「論文発表しないからいいや」とか「情報は他から手に入る」というレベルではなく、高校の同窓や大学のクラブの親友のように、コミュニティを一生大切にしようとしてきた方々だと思います。福沢諭吉は「人間関係（じんかんかんけい）」と言い、出会った師、先輩、仲間などを一生で最も大切にすべき一つとして、慶應義塾の理念になっています。これが三田会なのですが、いいところは学んで下さい（ちょっと宣伝してしまいました）。

（編集理事 山中直明）